会社概要

社　　名：　　株式会社　メルセン

所在地：長野県飯田市松川町　2211番地

TEL 0265-52-2711

Fax 0265-52-2710

設　　立：1989年（平成元年）10月20日

（親会社・明治製革（株）100年の技術継承）

＊主要製品 ： 牛革製造・・家具・自動車・航空機用革

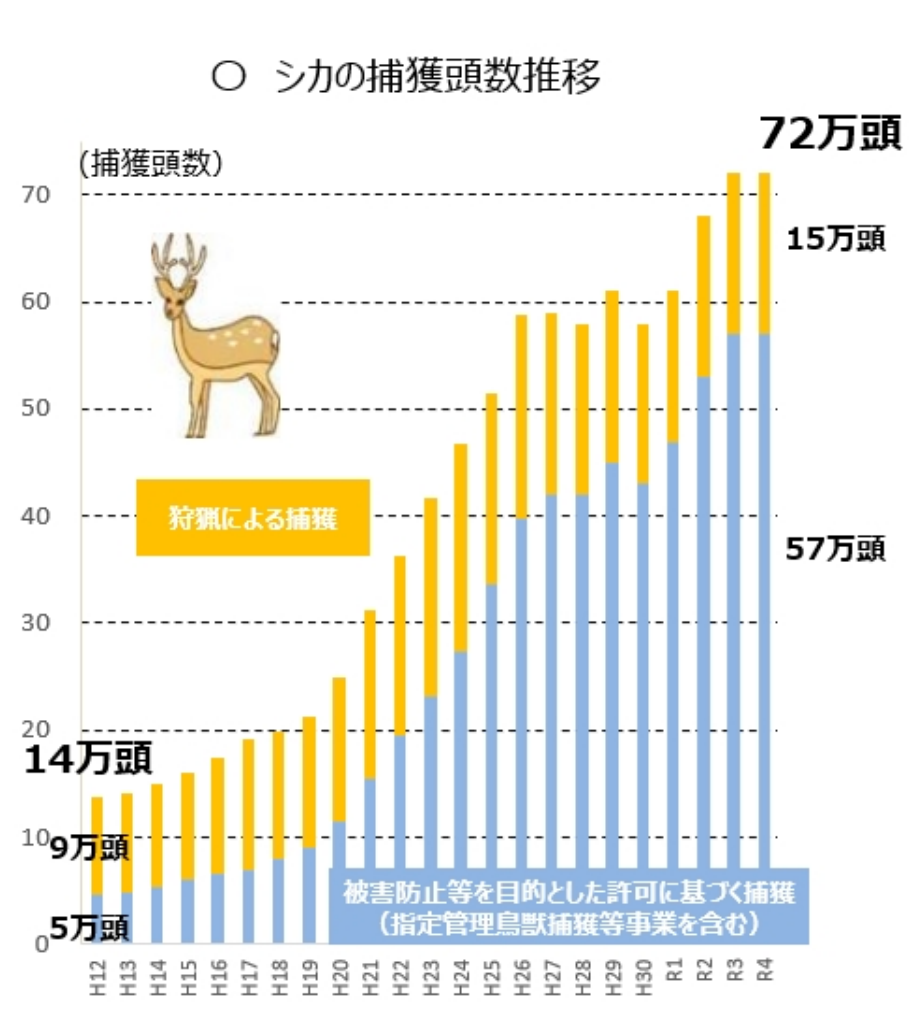
＊爬虫類革（ｴｷｿﾞﾁｯｸﾚｻﾞｰ） の製造

：ワニ・リザード・オーストリッチ・象・鮫・etc

＊ジビエ革（日本鹿・蝦夷鹿・猪・熊）の製造 ：小物・衣料等

＊加工品製造：自動車内装部品・建材内装部品・小物製造

シカ捕獲頭数の推移と鳥獣駆除の課題



Point

・全国では年間72万頭余りの鹿を捕獲

・長野県では年間約2万5千頭の鹿を捕獲

・捕獲数は足りていない（長野県の捕獲目標は年間4万頭）

・捕獲した鹿の多くはゴミとして埋設・焼却されている

（令和5年度　全国の鹿のジビエ利用率は約16.8%）

・駆除に要する費用（捕獲・処分）には、多くの予算が必要

捕獲目標を達成するためには、さらに多くの予算が必要となり
予算不足により捕獲が出来なくなる恐れがある

持続可能(Sustainable)な鳥獣対策を実施するためには、

駆除個体をゴミではなく資源として活用していくことが今後の日本においては不可欠

日本のジビエ（駆除個体資源化）の現状

・ジビエ事業推進の結果、多くのジビエ処理加工施設が誕生

※令和6年　ジビエ処理加工施設名簿　557施設

・その施設の多くが苦しい経営状況となっている

・商品の安全性の確保、安定供給、販路等、様々な課題があるが

残渣（骨・内臓・皮）処理にかかる費用も課題の一つ

弊社は皮を革へと作り替える製造技術を持っている。

ゴミとされていた皮を皮革製品として作り替えることで、ジビエ処理加工施設の処理費用を削減し、ジビエ事業に貢献できると考えた

鹿革の特徴

・軽くて、しなやかで、肌触りがよく柔軟性があり、良く伸びる。

・耐久性、保温性、通気性、吸湿性、吸水性に優れている。

・鹿革は日本の気候に最適な革素材。

・弱点は表面（銀面）が剥がれやすい。

鹿革（皮革製品）の課題

・革の製品は高価なものが多く、大量に売れるものではない
・革が丈夫で長持ちするため消費サイクルが長い（買換える頻度が少ない）
・傷や穴がある部分は使えないため歩留まりが悪くなる
・動物愛護意識により、革製品を持つ事への嫌悪感がある
　と言ったことから販売して利益を上げることが難しい

特に野生動物の皮は、品質が安定しないため皮革製品に利用できる部位が少ない
事業として継続し続けていくためには

①原料（原皮）の剥ぎ・保存状態での品質安定
②原料（原皮）の安定供給
③革製品（財布やバック等）以外の製品開発
④ジビエ革製品に関する意識変化
が求められた

②原料(原皮)の安定供給

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度(10ヶ月)
長野県内からの仕入れ数	1,018	1,798	2,648	2,724	2,508	3,276
長野県外からの仕入れ数	0	845	1,156	767	1,247	845
仕入れ数　総計	1,018	2,643	3,804	3,491	3,755	4,121

長野県を中心として、ジビエ処理加工施設に声をかけ
数多くの施設(15団体)から、鹿原皮の購入することができた。

輸送コスト削減のため、直接ジビエ処理加工施設を訪問し
情報交換を行いながら回収を行なっている。

③皮革製品（財布やバック等）以外の製品開発

野生動物を原料とする製品のため、剝皮・保存状態を一定としても
皮革製品（財布・バック等）として利用できない原皮も存在する

皮革製品（財布・バック等）として利用が難しい原皮

- 皮が薄いもの
- 弾痕の跡が中心部にあるもの
- ダニ食い跡、突き傷、バラ傷が多いもの、サイズの小さい物など

鞣した後の革の品質割合（弊社実績）

全てが皮革製品（バック・財布等）として利用可能な革	（Aクラス）：17％
一部が皮革製品（バック・財布等）として利用可能な革	（Bクラス）：45％
全てが皮革製品（バック・財布等）として利用不可能な革	（Cクラス）：38％

Cクラスの革を商品化しなければ、事業として成立させることは出来ない！

③皮革製品（財布やバック等）以外の製品開発

皮革製品は、そうそう頻繁に買い換えるものではなく、良い商品のため長持ちする。
良い製品は作りたいが、頻繁に購入してくれないと商売として成り立たないジレンマ

Bクラスの利用できない部位やCクラスの革を用いてペットフードの開発に挑戦

商品開発には臨床獣医師やペットフード販売店の意見を聞き、安全で売れる商品となるよう心がけた

④ジビエ皮革製品に関する意識変化

過度な動物愛護の風潮により皮革製品は「製造・使用してはいけない物」と考えられている一面もある。
しかし、駆除個体を用いた皮革製品は、ゴミとして処分される鹿皮を資源として有効活用する循環型社会実現に則した製品である。

市民や学生にジビエ事業（鹿革製品開発）の意義について鳥獣対策を含めて講義や講演会を行った

「命もらった動物」に思い

飯田の皮革工場を見学

大町の生徒

鹿の皮から脂肪分などを取り除く工程を見学する生徒ら

鹿などの野生鳥獣肉（ジビエ）や有害鳥獣駆除について学んでいる大町市美麻小中学校の9年生（中学3年に相当）10人が19日、年間で、県内で捕獲されたニホンジカ約3千頭分の皮をなめしている飯田市松川町の革製品製造会社メルセンを訪れ、鹿の皮の加工について理解を深めた。

生徒たちは本年度、地元住民らが取り組む有害鳥獣駆除や鹿の皮革の利活用に着目。自分たちにできることを探ろ

最後に

・駆除個体を用いた皮革製品を購入・利用することは、
日本の農作物被害対策・生態系保全に寄与することに繋がります。

・鹿一頭から原皮は必ず一枚発生します。
エコでサスティナブルな天然素材である皮革に、多くの方々が
興味を持ち、購入・利用を検討してくれることを願っています。

・別室、展示会場にて鹿革製品を展示しております。
鹿革を使って製品を開発してみたい、また、皮革製品を販売してみたい
と思われた方は弊社までご連絡お待ちしています。

ご清聴　ありがとうございました

株式会社　メルセン　中川